

○弘仁地震による被災の状況



第1図 山崩れで埋まった畠(桐生市新里町前田原1遺跡、桐生市教育委員会提供)。イネの微化石が検出された畠間が広い陸橋の畠。



第2図 地割れで部分的に壊れた後に洪水で埋まった水田(太田市世良田諏訪下遺跡、太田市教育委員会提供)。昔の河道が埋まっている一部分(矢印)がひどく陥没している。



第3図 弘仁地震で被災した放光寺(前橋市山王廃寺跡)の石製鴟尾と根巻石(奥)[左];心柱の台座[上]。鴟尾は寺院などの建物の屋根の飾りのことです。日本で見つかっている3つの石製鴟尾のうちの2つは放光寺のもです。

過去の人々の生活の跡をたまた、上野国分寺(前橋市・高崎市)や放光寺(前橋市山王廃寺跡、第3図)、さらに当時の新田郡や佐位郡の郡役所であった郡衙(太田市上野国新田郡家跡・伊勢崎市三軒屋遺跡)も、地震により被災しています(第2図)。水田の中には、大規模な条里水田もあります。(条里とは古代の碁盤目状の大規模な土地区画のこと。)

遺跡での被災状況と埋蔵文化財調査の役割

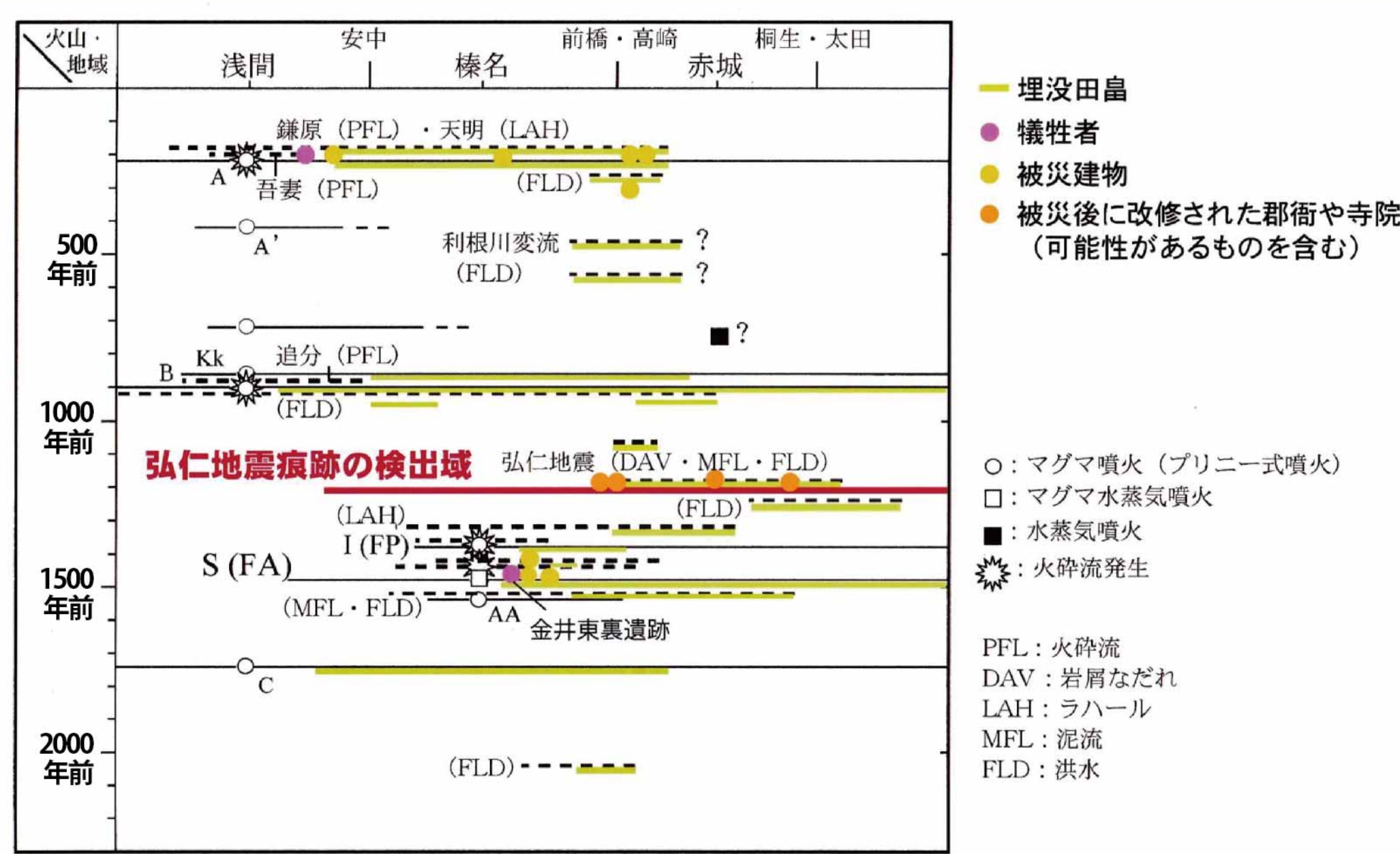
○防災に役立つ埋蔵文化財の調査研究

今日、県内各地で行われている埋蔵文化財調査の多くは、開発にともなって今後見ることができなくなる遺跡の記録保存を目的とした緊急調査です。ほかに、自治体や大学などによる学術調査も実施されています。群馬での発掘調査では、考古学の伝統的調査法のほかに、地形学や地質学と連携した土層の詳細な観察やさまざまな自然科学的分析が行われて、記録に残っていない過去のできごとや社会のしくみ、さらに人々の生活の様子などが詳しく解明されています。大きな成果が上がっています。たとえば、甲着裝人骨がみつかった渋川市金井東裏遺跡で代表される火山噴火による被災遺跡の発見や、ここで紹介した地

震関連の研究はその代表例で、群馬は自然災害史の研究でも先進的な地域となっています(第4図)。この結果、群馬ではめったに大規模な自然災害は起きないものの、まれに甚大な被害を受けることがわかってきました(第5図)。その一方で、人々は、被災後早い段階で復興関連作業を行い、しかも突然の環境変化に対応して土地利用形態を変えたり、火山噴出物を石材として利用したりして、たくましく生きてきたことも明らかになっています。想定外の被災を避けるためには、このような研究成果を今後の地域の災害対策や防災・減災教育などに積極的に活かしていく必要があります。



第4図 群馬における自然災害史研究のひとつの到達点((公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編、2013)



第5図 おもに埋蔵文化財の調査でわかった群馬の自然災害の歴史

○さらに、興味をお持ちの方へ

群馬県内の自然災害やそれに関係する埋蔵文化財調査に関心をお持ちの方は、右の博物館・施設などへおいでください。

- 群馬県立歴史博物館(高崎市)
- 群馬県立自然史博物館(富岡市)
- 群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館(渋川市)
- かみつけの里博物館(高崎市)
- 岩宿博物館(みどり市)
- 渋川市埋蔵文化財センター(渋川市)など

